

(協働版)

※(協働版)とは…

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺において、地域のみなさまとの協働による景観づくりを進めるため、ヒアリングやまち歩きなどの取組を通じ、その地域固有の歴史的資産の特徴、まちの成り立ち、歴史、文化等といった地域ならではの情報や地域のみなさまの思いなどの情報を取りまとめたものです。

植柳学区

1 本願寺と寺内町

本願寺と本願寺寺内町

1 本願寺寺内町

当地区は、江戸期京都において本願寺の影響下に置かれた町である。本願寺寺内町は、本願寺が天正19年(1591)に大阪天満(現大阪市北区)から現在地へ移転したことに伴い、本願寺の末寺や家臣、出入りの商工業者なども大阪から京都へ居を移したことを発端とし発展した。^{1-1) 1-2)}

本願寺の良(うしとら)の方角(北東)に位置する良町、巽の方角(南東)に位置する辰巳町は寺内町の当時の範囲を今に伝えている。

2 本願寺関連施設



伝道院 昔は地域の遊び場で、建物の周辺を走り回っていた。(国指定重要文化財)

総門 正面通のシンボルの存在。(国指定重要文化財)



顕道会館 大正12年(1923)、顕道学校の同窓会の集会所として建設された。昭和12年(1937)に本願寺へ寄贈され、昭和37年(1962)からは浄土真宗本願寺派京都教区教務所となった。¹⁻³⁾

昔は幼稚園などに使用されており、内部の大きなホールで習い事も行われていた。



本願寺国際センター 本願寺の国際伝道活動を推進するための施設。屋上部分にはストウパを模した宝塔を携えている。正面には親鸞聖人立像があり、行き交う人々の目を引き付ける。



▲親鸞聖人立像 ▲宝塔拡大図



太鼓楼 17世紀中頃の建造。慶応元年(1865)に新撰組の屯所を壬生から本願寺に移した際、本陣として使われた。新撰組の活動期間は6年程度であった。(国指定重要文化財)¹⁻⁴⁾

8 学林

龍谷大学の前身である本願寺末寺の僧侶の教育機関。元は別の名称で寛永16年(1639)に本願寺境内に開設されたが、16年後に破却され、元禄8年(1695)に境外(東中筋新花屋町周辺)に再興する際、学林という名称となった。明治4年(1871)、学林敷地の土知により再び本願寺境内に移転することになった。^{1-2) 1-5)}



学林町は、学林があったことが由来となって付いた名である。

龍谷ミュージアム まちに開かれた仏教総合博物館として仏教文化の普及に努めるとい理念のもと、龍谷大学創立370周年事業の一環で開館した。¹⁻⁶⁾

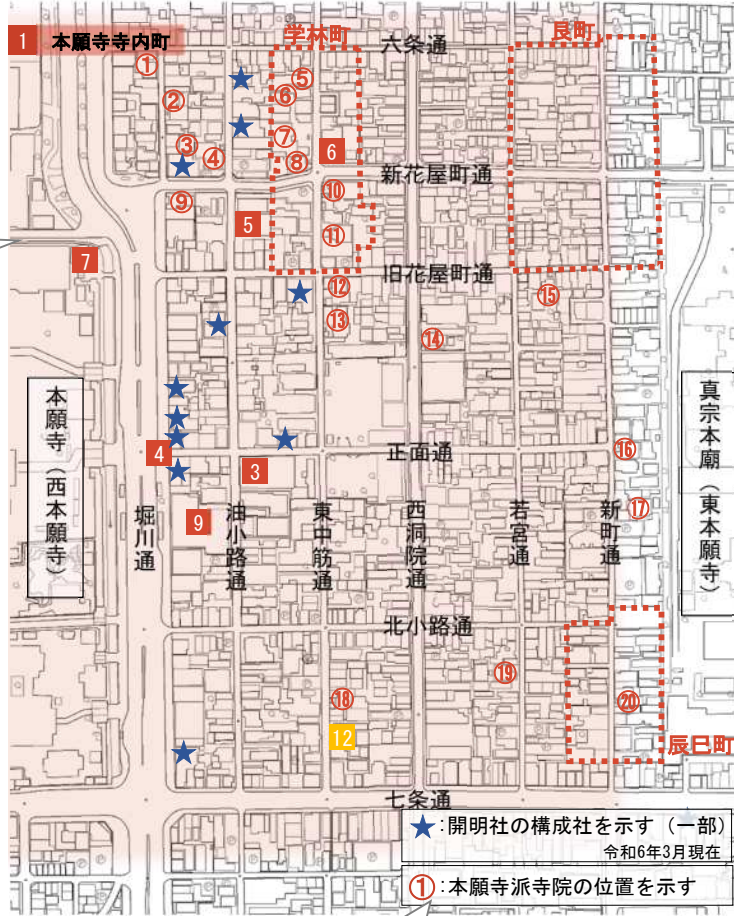
凡例:

まち歩きやヒアリングによる情報等

文献等による情報

【概要】

- ・本願寺は親鸞聖人没後の文永9年(1272)に造営された大谷廟堂に始まり、文永12年(1480)年には山科野村郷(現山科区)に本願寺を建立した。その後天文元年(1532)に焼失し、翌年には石山坊舎に移転した。その後幾度か移転し、天正19年に大阪天満から現在地へ移転した。
- ・学区の大半はかつての寺内町範囲であり、寺や寺に関わる商いを営む店が多く残る町並みから、今もその名残を感じる。
- ・毎年1月9日から16日にかけて行われる御正忌報恩講の際には、堀川通や正面通の店舗にも仏旗やのぼりが掲揚される。



10 本願寺派寺院

寺内町であったことから、学区内には本願寺派寺院が点在している。寺内町創建当初、本願寺とともに移転してきた寺院も多い。

寺内町にある本願寺派寺院の特徴

本願寺の鐘と紛らわしくなるため、梵鐘や喚鐘が無く、代わりに法要の際には雲版(雲形の銅板)を使用している。



本堂と庫裏が一体となった寺が多く、通称「どんぐり」と言っている。

植柳学区 本願寺派寺院

① 光恩寺	⑪ 常楽寺
② 慶證寺	⑫ 法輪寺
③ 善蓮寺	⑬ 一念寺
④ 名聲寺	⑭ 尊超寺
⑤ 祐西寺	⑮ 法光寺
⑥ 聞光寺	⑯ 金寶寺
⑦ 遍照寺	⑰ 明覺寺
⑧ 光照寺	⑱ 正光寺
⑨ 一行寺	⑲ 崇泉寺
⑩ 蓮光寺	⑳ 覺林寺

寺内町ならではの商い

11 本願寺御用達商 開明社

開明社は本願寺御用達商の組織で、本願寺と深い関わりを持つ。開明社の歴史は古く、石山合戦以前に、蓮如上人に帰依し浄土真宗に改宗した人々に始まった。京都へ本願寺が移転する際に上人にお供し、本願寺の調度出入方として、それぞれの商いを営みながら仕えていた。明治9年(1876)、当時の門主明如上人から開明社と名を受けられ、組織化された。令和6年3月現在、開明社に所属しているのは37社である。構成する店舗は仏具や法衣を扱う商いから建築関係など、様々な商いを営んでいる。開明社は、御正忌報恩講法要で出仕を行う等、1年を通して本願寺に奉仕している。

植柳学区では現在11社が所属しており、堀川通沿い及び学区の北西部に分布している。

12 摂津十三日講詰所



第十三代本願寺宗主の時代に、講員の愛山護法の念が非常に厚いことから、本山の境内地に詰所を設け、摂津十三日講も阿弥陀堂・御影堂の警護を担うことになった。その後、境内の詰所は現在地に移転。講員の宿舎の機能も含められている。¹⁻⁷⁾

報恩講の際、御堂の警備を担当する。その番に当たるために摂津から来た人々が詰めた場所。

※報恩講とは、浄土真宗の開祖親鸞聖人の遺徳を偲ぶ法要のことで、本願寺では1月9日から16日にかけて執り行われる。1年で最も大切な法要。



蓮光寺 七条堀川あたりから当地に移転。昭和18年(1943)に実施された強制疎開により花屋町通側の一部が取壊しになった。その後新たな本堂を建設する際、インドのストウパを模した屋根を設置。



▲昭和28年都市計画図

朱色で新しい街路が描かれている様子が分かる。

植柳学区

2 まちの特徴

凡例:

まち歩きやヒアリング
による情報等

文献等による情報

町並み

1 六条通

平安京の六条大路にあたる。江戸時代は、「魚棚通」と呼ばれた。²⁻¹⁾

六条商店街カラーロード六条会。商店街の範囲にはカラー舗装が敷かれ、他の通りとは異なる雰囲気をつくり出している。



2 正面通

東山の方広寺大仏殿の正面という意味から付いた名前。なお、方広寺大仏殿は昭和48年(1973)に火災で焼失している。²⁻¹⁾

本願寺総門から見る多くの仏具店が軒を連ねる様子は、本願寺界隈ならではの光景。本願寺伝道院が通りのランドマークになっている。



3 七条通

平安京の七条大路にあたる。明治末から行われた「三大事業」による道路拡幅で現在の幅員となった。^{2-1) 2-2)}

旧村井銀行をはじめ、大正から昭和初期に建設された近代建築物が点在している。



4 堀川通

京都の中央部を南北に貫く堀川に由来する。堀川は昭和30年代に水源がほぼ消失し、ほとんどが暗渠となった。本願寺前の掘割の風景は、川の姿を伝えている。

かつては堀川通と油小路通の間に西中筋通があったが、昭和20年に西中筋通以西が強制疎開となり、堀川通が拡張された。²⁻¹⁾



本願寺の門前という立地から宿が多く、国内外を問わず、京都を訪れる人々を迎え入れている。

改正増補京繪圖大成(1862)を見ると六条通から七条通にかけて西中筋通が通っていた様子が分かる。

かつて堀川通には、本願寺派寺院が建ち並んでいた。強制疎開により本願寺派寺院が移転した後は広場になり、ラジオ体操や盆踊り等が行われた。

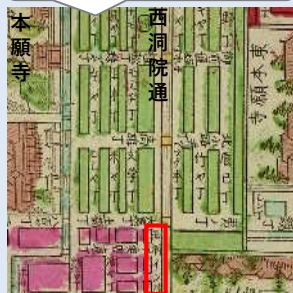
西中筋通は現在の堀川通東側歩道部分に位置していた。一部町名看板にその名残が残っている。



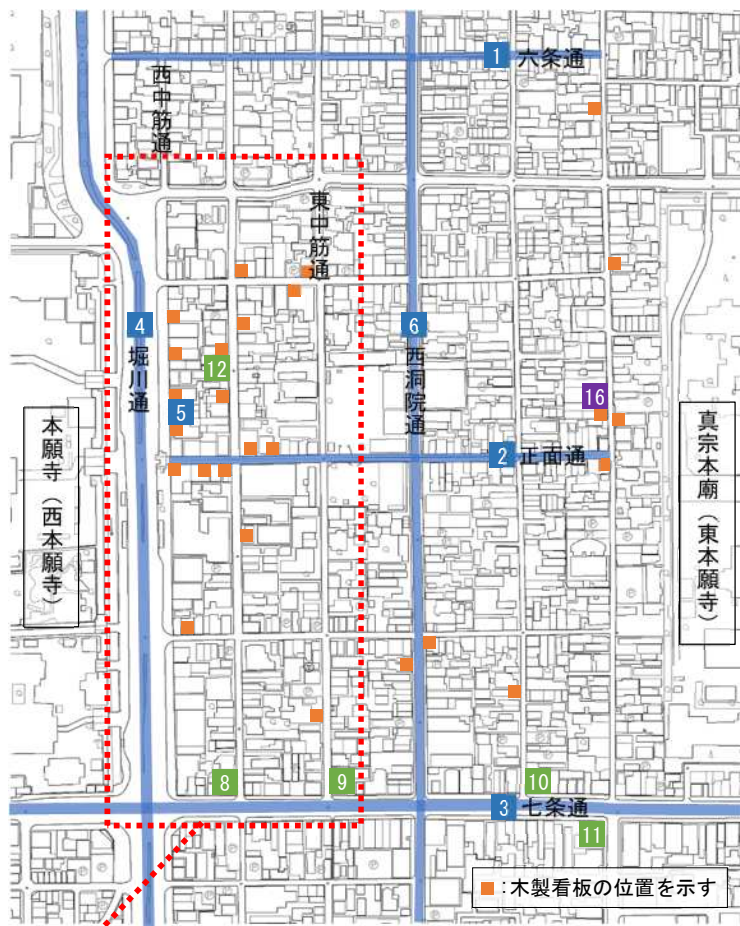
▲改正増補京繪圖大成
所蔵：国際日本文化研究センター

6 西洞院通

かつて西洞院通には大路の中央に西洞院川が流れ、染色、製糸業が盛んであった。



▲改正新刻京都市街新細図(1894)
所蔵：国際日本文化研究センター



■：木製看板の位置を示す

歴史的資産・建造物

7 七条通の近代建築



村瀬本店 元薬局で、現在は精肉店。洋風の構えになっている。



旧村井銀行七条支店 「たばこ王」村井吉兵衛が新たな事業として造った銀行。(国指定登録有形文化財)

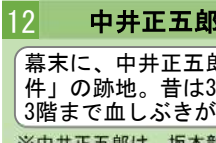


旧鴻池銀行七条支店 かつて三和銀行として使用されていた。(国指定登録有形文化財)



11

富士ラビット 自動車販売の草分けといわれる日光社の旧社屋で、ステンドグラスにはタイヤが描かれている。(国指定登録有形文化財)



※中井正五郎は、坂本龍馬と親交があった十津川郷士。龍馬暗殺後、その敵討ちとして海援隊と共に天満屋を襲撃。

歴史を感じる風景

13 木製看板



建物を建て替えたのちも昔の木製看板を掛けているお店も多く、代々引き継いでいる看板を大切にされている。木製看板は学区内に数多く残っている。

14 町家が残る風景



学区内には、外壁の腰下にタイル張り等の化粧を行ったもの、蔵風で洋風のうだつを上げたものなど、特色のある町家が数多く残っている。

15 歴史の形跡

辻を表す石碑。「右五條通り」「左西本願寺」と記されている。別のところに設置されていたものを移設したもの。



学区内には手押しポンプが複数残っている。今は使われていないが、かつては地下水が豊富に出ていた。



学区内には仁丹の看板をはじめ、昔の町名看板が数多く残っている。

植柳学区

3 地域の行事やコミュニティ

伝統・文化

1 若宮神社

若宮神社は、天喜5年(1057)、御冷泉天皇の勅命で源頼義が創建した社で、源頼朝が源氏の氏神として崇拝した。室町時代にも歴代将軍の社参が続き、応仁・文明の乱で焼失し、慶長十年(1605)に東山区五条大橋東(現若宮八幡宮)に移されるが、町の人々が社を守って現在に至っている。³⁻¹⁾



毎年鎌倉市の鶴岡八幡宮八幡祭に合わせ9月15日頃に例祭(若宮祭)が行われ、町内を神輿が巡行する。祭の数日前から若宮六条と若宮新花屋町の交差点には看板が掲げられる。

2 職人の集まる町

寺内町という場所柄、職人が多く集まっている町で、現在でも職人を抱えている店が点在している。創業時の事業は本願寺に由来するが、現代に合わせた営業形態に変更している店もある。



宇佐美松鶴堂 天明年間、本願寺専属の表具業を創業。現在は文化財の保存修理や表具を中心に取り扱っている。人材育成にも力を入れており、世界各国から研修員を受け入れ、文化財の修復技術等を伝承している。



竹重 創業開始後約200年。創業当時は竹屋として事業を開始したが、現在は神具(装束)の製造を行っている。装束に使用する布は西陣から仕入れている。

道路に面した外観は重厚感がある蔵風の意匠になっている。

市電

5 市電ルート



西洞院通と七条通には、明治38年から昭和36年まで市電が通っていた。³⁻²⁾

6 市電の石畳



市電廃止に伴い、市電敷で使われていた石畳を譲り受け、路地の舗装材として活用されている。

凡例:

まち歩きやヒアリングによる情報等

文献等による情報



若宮通は、若宮神社が由来となって付いた名である。

【概要】

- ・学区名である植柳は、植松町と柳町からつけられた名であるとされる。
- ・地蔵盆をはじめ、地域活動も活発に行われており、本願寺門前をきれいにしたい等の思いから有志によるまちづくり活動も行われている。
- ・町の人々が神社を守り、町内を神輿が巡行する等、歴史と文化を現代に引き継いでいる。

地域コミュニティ

植柳まちづくりプロジェクトチーム
公式キャラクター「おりんちゃん」



7 地域活動

植柳学区内の社会福祉協議会では、破れてしまった障子の貼替えなど、地域住民のちょっとしたお困りごとを解決する「ちょいボラ」や、地域交流の場として「ふれ愛サロン」などを行っている。ふれ愛サロンは毎月第四金曜日に開催。



8 地蔵盆

町の数が多いため、学区内にはたくさんのお地蔵様が祀られている。その中で、子どもは少なくなったが、地蔵盆を地域の子に引き継いでいけるよう頑張っている町もある。

法要や数珠廻しに加え、救命救急講習なども行われる。



▲福本町地蔵盆の様子

9 植柳まちづくりプロジェクトチーム

全国から人が訪れる本願寺門前をきれいにしたい、まちを活性化したいという思いから、平成21年に、地域の有志によりまちづくりプロジェクトチームを結成。清掃活動をはじめ、様々な取り組みを行っている。

平成22年には、親鸞聖人750回大遠忌法要の際、多くの門信徒が来訪するのに合わせ、植柳学区の歴史や建物、お店等を紹介する「植柳マップ」を制作し、参拝者等に配布した。



「おりんde風鈴」まつり。毎年夏に、おりんで作った風鈴を寺や店先に釣下げている。

本願寺のお煤払いに参加。竹で畳を叩き、大きなうちわで外に埃を出している。



その他

10 植柳小学校跡

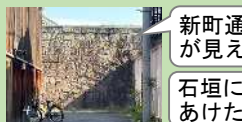


西洞院正面交差点には旧番組小学校の一つ、植柳小学校が建っていたが、平成22年から下京区涉成小学校に統合。その跡地が植柳コミュニティセンターとホテルに生まれ変わった。

敷地の一角には、二之宮金次郎像が移設された。



11 東本願寺 石垣



新町通からは東本願寺の西側石垣が見える。

石垣には「穴門」という、石垣にかけた通用口が存在する。



12 その他



学区内(特に若宮通)にはトンネル路地が残っている。

学生が設計した住宅。外壁全面に格子を配置している(「第2回京の町家学生設計コンペティション」の最優秀作品)。



1 本願寺と寺内町

- 1-1 「京都市の地名」 平凡社
- 1-2 「京都大辞典」 淡交社
- 1-3 「京都市の近代化遺産-京都市近代化遺産（建造物等）調査報告書-」 京都市文化市民局
- 1-4 太鼓楼 案内板
- 1-5 龍谷大学HP <https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/history.html>
- 1-6 龍谷ミュージアムHP <https://museum.ryukoku.ac.jp/>
- 1-7 講社～本願寺とともに～HP
https://kousha.hongwanji.or.jp/kosha_gakari/%E5%A4%A7%E9%98%AA%E6%95%99%E5%8C%BA%E6%91%82%E6%B4%A5%E5%8D%81%E4%B8%89%E6%97%A5%E8%AC%9B.html

2 まちの特徴

- 2-1 「京都の大路小路」 小学館
- 2-2 「京都市の近代化遺産-京都市近代化遺産（建造物等）調査報告書-」 京都市文化市民局

3 地域の行事やコミュニティ

- 3-1 「京都の大路小路」 小学館
- 3-2 京都市歴史資料館情報提供システム フィールド・ミュージアム京都HP https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/fmindex/zikou_frame.html